

LeCroy

ZS1000

ハイインピーダンス・アクティブ・プローブ



オペレーターズ・マニュアル

保証

本製品はお客様に納入した時点から1年間、仕様範囲内における通常の使用および操作に対して保証されています。予備部品、交換部品、および実施した修理に対する保証はすべて90日です。

保証期間内修理とは、このオプションでレクロイは修理又は正規サービスセンター又はカスタマーサービス部門に保障期間内で戻された部品で交換を行います。しかし、これはレクロイの試験により不良であると確認された製品に限り行われます。また、その不良が誤用や注意を怠っている場合、異常な取り扱い、正規サービスではない者による改造や修理に起因するものは除かれます。


レクロイ社のサービスセンター等に製品を返送する際の送料や保険料はお客様の負担とします。保証対象の製品を送付するときの送料はレクロイ社が前払いいたします。

下記の保証条項は、明示的または暗黙的を問わず、他の一切の保証条項（特定の用途や商用性・適応性に関する保証を含む。それらに限定されない）よりも優先されます。レクロイ社は、契約に明記されているかどうかに関わらず、一切の間接損害、実害、偶発的損害、直接損害に関する責任を負いません。

インターネット：www.lecroy.com

© 2009 by LeCroy Corporation. All rights reserved.

LeCroy、JitterTrack、WavePro、WaveMaster、WaveSurfer、WaveLink、WaveExpert、WaveJet、およびWaverunnerは、LeCroy Corporationの登録商標です。その他の製品名またはブランド名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。本書に記載の情報は、以前のすべての版に優先します。仕様は予告なく変更することがあります。

<p>本製品はISO 9000登録の品質管理体系に基づき製造されています。</p> <p>Visit www.lecroy.com to view the certificate.</p>		<p>この電子製品の廃棄処分とリサイクルに関しては、国および地域ごとに異なる各種規制が適用されます。ほとんどの国では、電子機器を一般ごみと一緒に廃棄することが禁止されています。</p> <p>レクロイ製品の正しい廃棄/リサイクル方法については、www.lecroy.com/recycle を参照してください。</p>
--	---	---

目次

1. 安全上の注意	1
2. 概要	3
製品の説明	3
主な利点	3
標準アクセサリ	3
オプション・アクセサリ	4
3 製品の特徴やアクセサリ	5
プローブ・ヘッド	5
標準、及びオプションアクセサリの説明	5
A. Tips	5
B. Grounds	6
C. Leads	8
各種プロービング方法	9
4. 取り扱い	11
プローブの取り扱い	11
オシロスコープへのプローブの接続	11
被測定回路へのプローブの接続	11
レクロイのオシロスコープとの操作	11
5 広帯域計測の注意点	12
入力ローディング	12
誘導性ローディング	12
容量性ローディング	13
6. 清掃とメンテナンス	15
クリーニング	15
キャリブレーション期間	15
修理サービス	15
交換パーツ	16
7 性能試験	18
必要機材	18
測定準備手順	18
機能チェック	19
測定手順	19
A. Output Zero Voltage	19
B. LF Attenuation Accuracy	20

8. 仕様	23
公称特性	23
保証特性	23
代表特性	23
環境特性	24
物理特性	24
コンプライアンスと認証	25

1. 安全上の注意

安全操作

人体への危害を防止し、製品の損傷および製品に接続された他の製品の損傷を避けるために、安全に関する次の注意事項を守ってください。

グラウンドされた機器への適切な接続。

このプローブはグラウンドに接続されたオシロスコープにのみ使用します。

適切なプローブ接続:

試験回路へプローブを接続する前にオシロスコープへプローブを接続してください。テスト・リードが電圧源に接続されている間は、試験装置からプローブの切断を行わないでください

プローブの最大定格を超える入力を与えないでください。

電圧減衰カーブ条件：高周波信号を計測する場合、周波数に対する最大入力電圧が減少することを注意してください。詳細は本マニュアルの仕様欄をご参照ください。

湿度の高い場所や爆発の可能性のある環境で使用しないでください。

屋内での使用：本製品は屋内での使用を想定しています。清潔で乾燥した場所で使用してください。

部品が損傷した状態でプローブを使用しないでください。：資格のあるエンジニアに修理を依頼する必要があります。

怪我の回避

プローブチップは非常に鋭いため、怪我をしないよう十分注意してご使用ください。

プローブおよび接続先のオシロスコープは、必ず指定された方法で使用してください。そうしないと、保護機構が損傷する可能性があります。

注意

注意は製品の利用に関しての情報が含まれています。

警告

警告はプローブやプローブに接続された製品にダメージを与えないように従わなければならない情報が含まれています。



このシンボルが製品で現れます。

このマニュアルに含まれる関連情報を参照することを示しています。マニュアルの対応する情報が同様に示されます。

###

2. 概要

製品の説明

1 GHz ZS1000は増加する計測ニーズに対応した小型で、高インピーダンスのアクティブプローブです。

低入力容量と高インピーダンスで測定対象回路への負荷を最小に抑えます。ZS1000はファームウェアバージョン4.9.3以降のWaveSurferXs, WaveRunnerXi, WaveMaster, WavePro 7000, WavePro7Zi, WaveMaster8Ziシリーズでご使用いただけます。

ProBusインターフェースはZS1000プローブに必要不可欠です。ProBusによりプローブはオシロスコープのフロントパネルからコントロールさせることが可能になり、またプローブにオシロスコープから電源を供給するため、バッテリーや別電源を必要としません。

主な利点

- 高周波性能
- 低入力容量
- 広ダイナミックレンジ
- ProBusインターフェース
- 様々なテストポイントへプロービングするための4つの交換可能なチップを用意しています。
(1つは標準、3つはオプションアクセサリ)

標準アクセサリ

ZS1000プローブは次の標準アクセサリと共に出荷されます。

アイテム:	個数:
Straight Tip	4
Sprung Hook	2
Right Angle Connector	1
Offset Ground	2
Ground Blade	1
Copper Pad	2
Short Single lead	1
Long Single Lead	1
Instruction Manual	1
Certificate of calibration	1
Y-lead Adapter	1
Color Coding Rings	4 sets

オプション・アクセサリ

次のアイテムがZS1000のオプション・アクセサリとして使用することができます。

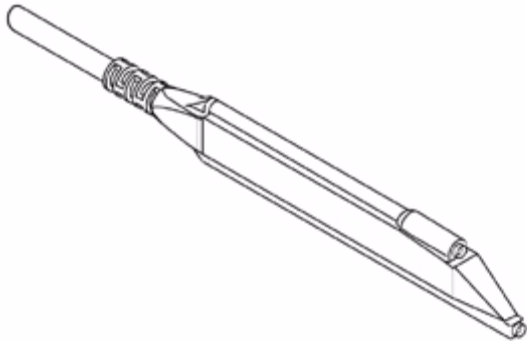
- IC Lead Tip
- Discrete SMD Tip
- Bent Sharp Tip
- Bendable Pogo Ground
- Ground Spring with Hook
- Solder-in Ground
- Square Pin Ground Spring
- Short Right-angle Lead
- Long Right-angle Lead

標準アクセサリやオプション・アクセサリのパーツ番号は交換パーツリストのセクションをご参照ください。

3 製品の特徴やアクセサリ

ZS1000プローブはかつてないほど簡単に異なるテストポイントへ接続することができ、プロービングするための様々なアクセサリや機能が提供されます。

プローブ・ヘッド



プローブヘッドは小さく、軽いだけでなく、高性能で簡単に使用できるように設計されています。プローブチップ・ソケットはテストポイントへ直接アクセスできるように0.025 インチのスクエアピンにフィットします。多様なアダプタをプローブ・ソケットに直接接続することができます。

グラウンド・ソケットは高周波性能を保つため、短いグラウンド経路を提供する様々なグラウンド・リードを接続することができます。

標準、及びオプションアクセサリの説明

次のアクセサリはプローブチップ・ソケットやグラウンド・ソケット、又は他のソケット・リードやアダプタに接続することができます。

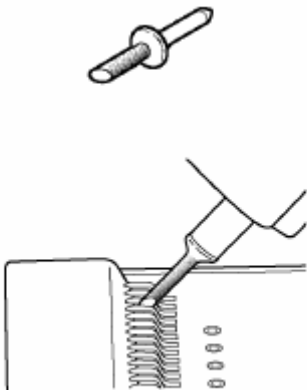
A. Tips

Straight Tip



Rugged tipは小さなビアやテストポイントに接続できるようにデザインされ、どのプローブ・ソケットにもフィットします。
PK-ZS-001 (4個入り)

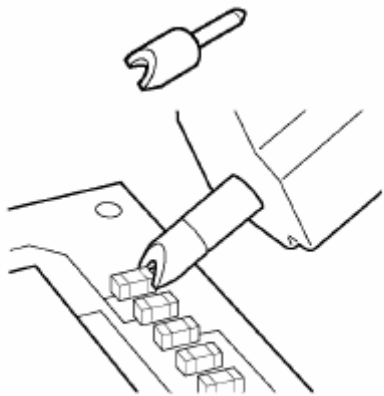
IC Lead Tip



全ての側面が絶縁で覆われ、周辺のICリードと電氣的に接触しないようにデザインされています。チップの金の部分は絶縁ではなくテストされるICリードに接触させます。この形状は一つのサイズで全てのICにフィットでき、どのICリード・ピッチでも計測することができます。どのプローブ・ソケットにもフィットします。ICリードチップはZS1000のオプション・アクセサリです。

PACC-PT003 (4個入り)

Discrete SMD Tip

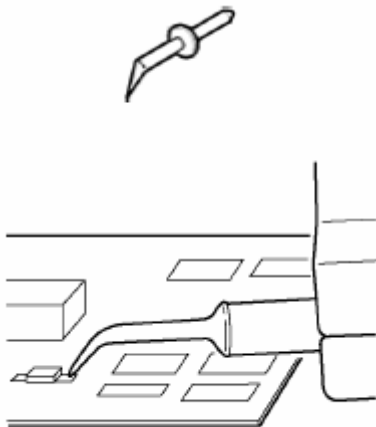


この三日月形のチップはコンデンサや抵抗、トランジスタなどリードが個別にある表面実装部品にフィットするよう設計されています。どのプローブ・ソケットにもフィットします。SMD

Discrete TipはZS1000のオプション・アクセサリです。

PACC-PT004 (4個入り)

Bent Sharp Tip



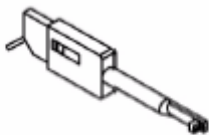
チタン製で、このチップはユーザーがテスト回路と並行にプローブを固定するような状況では理想的なチップです。また鉛筆のようにプローブを持って自由にコントロールすることができます。どのプローブ・ソケットにもフィットします。

Bent Sharp TipはZS1000のオプションアクセサリです。

PACC-PT005 (4個入り)

B. Grounds

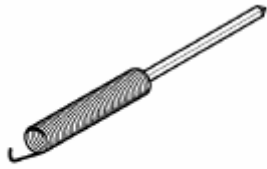
Micro Clip (0.5 mm) Sprung Hook



SMD ICで見られるような小さな部品やファインピッチリードをしっかりと捕まえるため、スプリング・フックのようなつまみがあります。いずれのプローブ・ソケットにも直接、またはリードを使用して接続することができます。スプリング・フックはZS1000の標準アクセサリです。各4つのPK-ZS-007R (赤) , PK-ZS-007B (黒) のパッケージを利用する事ができます。

PK-ZS-007R, PK-ZS-007B (4個入り)

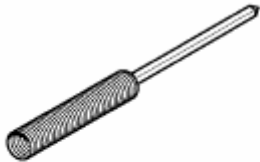
Ground Spring with Hook



柔軟性のあるスプリングが、スクエアピンの先端に取り付けてあり、どちらのプロブヘッド・ソケットにも接続できます。グラウンド・リードとして使うようにデザインされており、スプリングの端にフックがあって、グラウンド回路に接続することができます。**Ground Spring with Hook**はZS1000のオプションアクセサリになります。

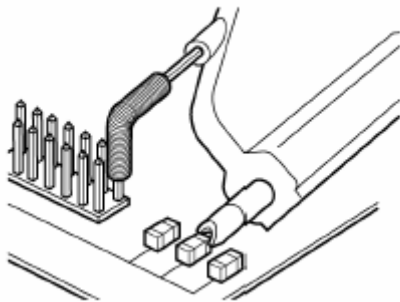
PACC-LD001 (4個入り)

Square Pin Ground Spring



柔軟性のあるスプリングが、スクエアピンの先端に取り付けてあり、どちらのプロブ・ソケットにも接続できます。試験回路のスクウェアピンに接続するようにデザインされています。**square pin ground spring**はZS1000プローブのオプション・アクセサリです。

PACC-LD002 (4個入り)



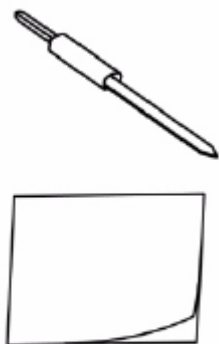
Offset Ground



オフセット・ピンはどちらのプロブヘッドのソケットへも接続できるようにデザインされています。オフセットピンは最高級のグランディング・ソリューションで高周波のアプリケーションでお勧めします。**offset ground**はグラウンド・ソケットに接続するようにデザインされプローブヘッドの形状に沿う形状になっています。この曲がりにはプローブ信号ピンとグラウンドを非常にすぐ近くにすることができます。信号と短い距離で接続できるので、高周波のアプリケーションで高性能なグランディングが提供できます。

PK-ZS-002 (4個入り)

Ground Blade and Copper Pad



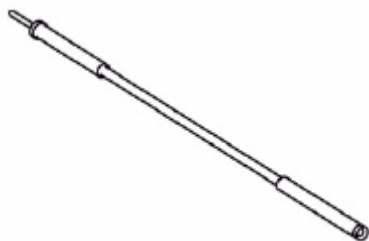
ICにプロービングするのに最も良いグラウンディング・ソリューションを提供するためにGround Blade と Copper Padは一緒に使います。Ground Bladeは短くて、低インダクタンスの経路を提供します。Copper Padは裏面の接着面でICの上面に貼り付け、ICのグラウンドに半田付けすることができます。Copper Padはオフセットグラウンドとともに使用することができます。

PK-ZS-009 (4個入り)

C. Leads

プローブを回路に接続する場合、非常に柔軟に対応するため長いリードが用意されています。しかしインダクタンスが追加され、高周波に対する忠実度が低下する可能性があります。更には詳しくはセクション4を参照してください。

Short and Long Lead

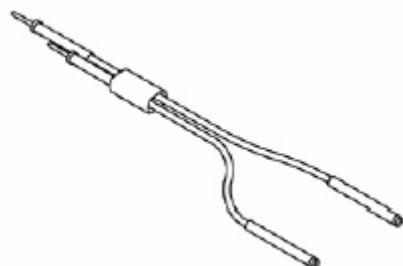


このリードは一方にソケットがあり、反対側にプローブの入力ソケットやグラウンド・ソケットに接続するための接続するためのスクウェアピンがあります。一般的な目的のプロービングに使用する事が出来ます。

PK-ZS-003 (short),

PK-ZS-004 (long) (4個入り)

Y Lead Adapter



このリードはグラウンドや入力リードが共になっています。2つのソケットが一方にあり、もう一方には2つのスクウェアピンがあります。一般的な目的のプロービングに使用する事ができます。

PK-ZS-005 (4個入り)

各種プロービング方法

●一般的なブラウジング



一般的なブラウジングの場合は、

- ・ シャープ・プローブ・チップ
- ・ ライト・アングル・リード

を使用します。

●離れたスクエア・ピンのプロービング

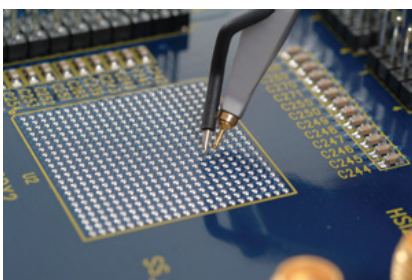


互いに遠く離れたスクエア・ピンに対してプロービング
を実行するには、

- ・ ライト・アングル・コネクタ
- ・ ライト・アングル・リード+スプリング・フック

を使用します。

●近接したポイントのプロービング

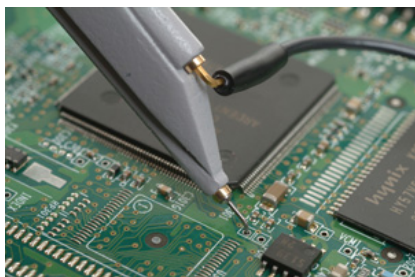


非常に近接したグラウンド・ポイントや信号ポイントに対するブ
ロービングについては、

- ・ シャープ・プローブ・チップ
- ・ オフセット・グラウンド

を使用します。

● 届きにくいポイントのプロービング

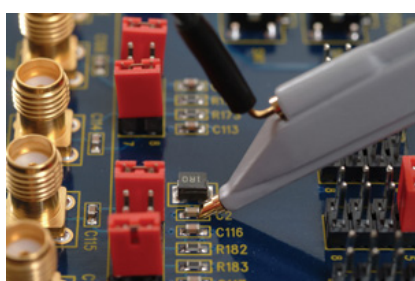


届きにくい空間は、

- ・ シャープ・ベント・チップ

を使ってプロービングできます。このベント・チップは、この図に示すライト・アングル・リード（ショート）など、様々なグラウンド・リードとともに使用できます。

● 表面実装された部品のプロービング



抵抗器やコンデンサなど、表面実装された部品に対して直接プローブを実行するには、

- ・ ディスクリート SMD チップ

を使用します。ディスクリート SMD チップは、この図に示すライト・アングル・リード（ロング）など、様々なグラウンド・リードとともに使用できます。

● IC のプロービング



グラウンド・ブレードと銅箔を使用すると、グラウンド・ループが最小限に抑えられるため、IC に対してプロービングを実行するときに卓越した信号忠実度が実現されます。テスト・ポイント間のショートを防止するために、絶縁 IC リード・チップを一緒に使用してください。

4. 取り扱い

プローブの取り扱い

プローブの取り扱いや保管に注意してください。プローブの本体、またはオシロスコープ側のボックスを持つようにしてください。過度の負荷や角の急な場所にプローブのケーブルが触れないようにしてください。

オシロスコープへのプローブの接続

ZS1000はProBusインターフェースがあるWaveSurferXs, WaveRunnerXi, WaveMaster, WavePro7000, WavePro7Zi, WaveMaster8Ziシリーズで使用するように設計されています。オシロスコープのチャンネルにZS1000プローブが接続されると、オシロスコープはプローブを自動認識します。適切な入力カップリングが選択され、プローブをコントロールするユーザーインターフェースが有効になります。

被測定回路へのプローブの接続

計測アプリケーションで高いパフォーマンスを保つため、被測定回路へのプローブ接続は注意深く実行しなければなりません。入力経路へ寄生容量やインダクタンスが追加されると、リングングや高速な信号でのライズタイム低下の原因となる可能性があります。また、大きなループエリアを伴う入力リードはループを通過する放射電磁界を拾ってしまい、プローブの入力にノイズを生じさせる可能性があります。小型ヘッドと小さな形状のZS1000と適切なアクセサリを使用することで密度の高い回路においても最適な計測アプリケーションを提供します。

レクロイのオシロスコープとの操作

ZS1000プローブがレクロイのオシロスコープに接続されると、表示スケールや計測データが自動的に調整されます。ZS1000の設定メニューは接続されたチャンネルのカップリングメニュー内で行えます。**Volts/Div**ノブを回して電圧レンジをコントロールでき、最大2V/divまでスケールを調整することができます。ZS1000ではOffset回路が搭載されていません。**Offset**ノブを回した場合、画面上のオフセットは移動しますが、電気的にはオフセット調整されていません。そのため、最大電圧は±8Vまでのままになります。

5 広帯域計測の注意点

入カローディング

測定対象の回路にプローブを接続するとき、プローブはプローブの入力インピーダンス回路が測定対象物に伝わるため、計測結果に影響を与えます。全てのプローブは抵抗、容量性、誘導性負荷で表されます。

誘導性ローディング

回路の中で重要な要素はプローブのグラウンド・リードのインダクタンスです。

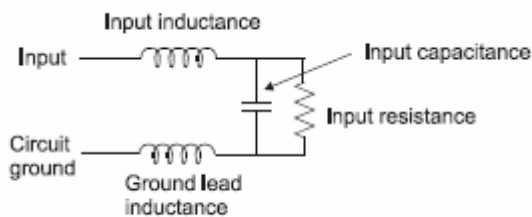


Figure 5-1. Probe Input Equivalent Circuit

この入力インダクタンスやグラウンド・リード・インダクタンスはプローブの入力容量と一緒にLCネットワークを形成します。このLCネットワークのインピーダンスはその共振周波数で劇的に小さくなります。これはパルスを計測した際にリングングとして影響します。この影響はグラウンド・リード・コラプションと呼ばれます。この回路からL、Cのどちらとも削減することができないので、波形を忠実に測定するためには、測定に必要とされる帯域を越えるように測定回路系の共振周波数を上げることが重要になります。この簡単な共振周波数は下記のように表されます。

$$F_{Resonance} = \frac{1}{2\pi\sqrt{LC}}$$

このLC回路の共振周波数はインダクタンス、キャパシタンスのどちらかを少なくするか事によって上げることができます。入力キャパシタンスは既に低く少なくすることができませんが、インダクタンスを下げるように試みることはできます。これは最も短いリードや短いグラウンド・リードを使うことによって成し遂げることができます。

例えば、ICに関係する信号を計測するとき、もっとも短いグラウンドリードにするため、ICパッケージの上に銅版を置き、グラウンド線を接続します。この最も短いグラウンド・リードやインプット・リードの使用は信号の忠実度を最も良くし、接続も簡単です。

この劇的な効果を説明するために、簡単な例を示します。

入力容量が0.9pF、リードの長さが2インチ（インダクタンスはおおよそ25nH/inch）とするならば、下記の式の周波数でリングングが起こります。

$$f_0 = \frac{1}{2\pi\sqrt{50 \times 10^{-9} \times 0.9 \times 10^{-12}}} = 750 \text{ MHz}$$

この周波数はプローブのパスバンド以内にあり、それゆえ速いTime/Divの設定では信号計測の一部として影響が現れます。

プローブのリングングの影響をなくし、どのくらい高速の信号が計測できるかは、0.35をBW（リングング周波数）で割った値になります。

$$t_{rise} = \frac{0.35}{BW} = \frac{0.35}{750 \text{ MHz}} = 0.47 \text{ ns}$$

0.47nsより速いRiseTimeでの入力信号はリングングが起こります。

容量性ローディング

容量性負荷は常に3つの負荷効果の中で最もやっかいです。立ち上がり時間や帯域、ディレイ時間に影響します。波形の指数応答を含むことによって計測される高速信号での容量性負荷は波形の形も同様に影響を受けます。例えばこの指数応答の時定数の単純なRCネットワークの例は

$$t_{rise} = 2.2 \times C_{total} \times R_{total}$$

Ctotalは回路上の容量とプローブの容量の組み合わせです。Rtotalは回路上の抵抗とプローブの抵抗との組み合わせです。容量性の負荷がないと仮定した場合Ct = 0.9 pF、250ΩではRiseTimeは0.495nsになり、909MHzに相当します。(trise=2.2 x 0.9 X 10-12 x 250Ω = 0.495 ns)また250Ωと1MΩを並列接続すると、おおよそ250Ωとなります。

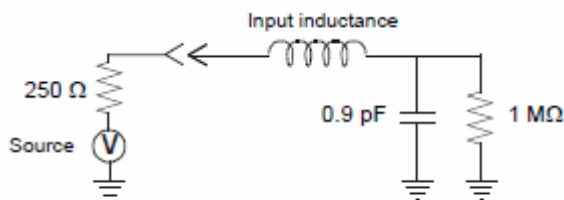


Figure 5-2. Probe input equivalent circuit

高周波での容量性負荷の影響を理解するため：

750MHzの周波数、0.9pFの容量のリアクタンスは236Ω、1GHzのリアクタンスは177Ωに下がります。もし、周波数が与えられ、ソース・インピーダンスは入力インピーダンスに対して大きくなったら、出力信号の振幅で計測の減少は下記のようにになります。

$$V_{out} = \frac{Z_{probe}}{Z_{probe} + Z_{source}} \times V_{in}$$

Zprobe はプローブの入力インピーダンス

Zsource はソースのインピーダンス

750MHzで、プローブのインピーダンスが267Ω、ソースのインピーダンスが250Ω の場合、出力信号の振幅は下記のように減少します。

$$V_{out} = \frac{236}{236 + 250} = 0.49 \times V_{in}$$

6. 清掃とメンテナンス

クリーニング

プローブの外装やケーブルは水やイソプロピル・アルコールで多少湿らせた柔らかい布などで清掃してください。研磨剤や強力な洗剤、またはその他の溶剤の利用はプローブにダメージを与える可能性があります。常に入力リードを清潔にしてください。

注意：プローブケースは封止されていないため、液体の中に浸けてはいけません。

キャリブレーション期間

キャリブレーションは年に1回行うことをお勧めします。（性能の検査はマニュアルに含まれています）

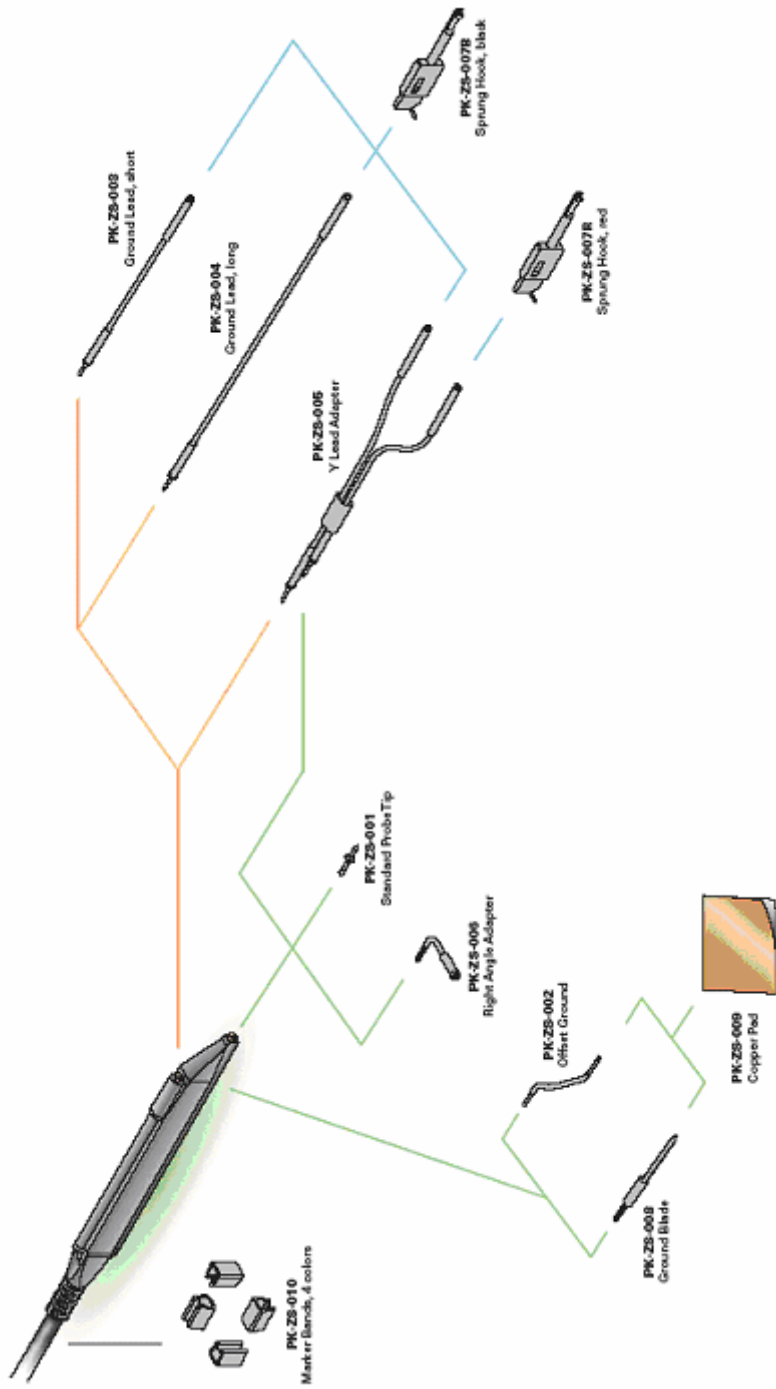
修理サービス

ZS1000はファインピッチ表面実装デバイスを使用しています。そのためフィールドで修理することは現実的ではありません。故障したプローブはレクロイのサービスセンターに戻し、検査、交換を行う必要があります。保障期間内で故障したプローブは弊社工場で点検修理されたプローブ無償にて、保障期間外で故障したプローブは有償にて交換いたします。

交換パーツ

プローブの接続アクセサリや他の一般的なパーツはレクロイジャパン、若しくは弊社代理店を通して販売しております。次のパーツ番号をご参照ください。

アイテム	パーツ番号	数量
Straight Tip	PK-ZS-001	4
Offset Ground	PK-ZS-002	4
Short Lead	PK-ZS-003	4
Long Lead	PK-ZS-004	4
Y Lead Adapter	PK-ZS-005	4
Right Angle Connector	PK-ZS-006	4
Sprung Hook - Red	PK-ZS-007R	4
Sprung Hook - Black	PK-ZS-007B	4
Ground Blade	PK-ZS-008	4
Copper Pad	PK-ZS-009	4
Color Coding Rings	PK-ZS-0010	4
IC Lead Tip	PACC-PT003	4
Discrete SMD Tip	PACC-PT004	4
Bent Sharp Tip	PACC-PT005	4
Solder-In Ground	PACC-CD007	2
Bendable Pogo Ground	PACC-CD008	2
Ground Spring with Hook	PACC-LD001	4
Square Pin Ground Spring	PACC-LD002	4
Short Right Angle Lead	PACC-LD003	4
Long Right Angle Lead	PACC-LD004	4



7 性能試験

この手順はZS1000の保証性能を検査するために使用します。ZS1000の校正期間は1年毎に行うことをお勧めします。テスト結果は本マニュアルのAppendix Aに提供されるTest Recordをコピーいたものに記入することができます。性能試験はプローブのカーバーを取り外しや危険電圧がユーザーに触れることなしに行うことができます。調整は性能試験の結果が仕様から外れていた場合のみ実行すべきです。

注意：調整はトレーニングを受けた資格のある人間が行わなければなりません。

この手順は次の仕様に対し試験します。

- Output Zero Voltage
- LF Attenuation Accuracy

必要機材

Table7-1のリストはZS1000の性能試験に必要とされる計測器やアクセサリです。この手順書は必要とされる校正済みの計測器の数を最小に抑えるように作られています。

最小要項の欄で太字に書かれたパラメータは示された精度で校正されている必要があります。

入力や出力コネクタのタイプは製品により異なることが考えられるため、追加のアダプタやケーブルが必要になる可能性があります。

説明	必要最低条件	機材例
オシロスコープ	ProBusインターフェース搭載の Windowsベースのオシロスコープ	LeCroy WaveRunner Xi, WaveSurfer Xs
マルチメータ	4.5 digit DC: 0.1% 精度 AC: 0.1% 精度	Agilent Technologies 34401A or Fluke 8842A-09
ファンクション・ジェネレータ	70 Hzのサイン波形出力 14.14 Vp-p (5 Vrms) まで調整可能 (1 MΩ)	Agilent Technologies 33120A or Stanford Research Model DS340
電源	0-12 V, 10 mVまで設定可能	HP E3611A
BNC Coaxial Cable (2個)	メス-メス, 50 Ω, 36" Cable	Pomona 2249-C-36 or Pomona 5697-36
BNC T コネクタ	オス - メス(2)	Pomona 3285
ProBusエクステンダ		LeCroy PROBUS-CF01
Terminator, Precision, BNC	50 Ω ± 0.05%	LeCroy TERM-CF01
バナナプラグアダプタ(2個)	メスBNC - ダブルバナナプラグ	Pomona 1269
BNC - Mini-grabber	BNC Male to Mini-grabber Cable, 36"	Pomona 5187-C-36

測定準備手順

1. ZS1000プローブをProBusエクステンダのProBusコネクタのメス側に接続し、ProBusエクステ

ンダのProBusコネクタのオス側をオシロスコープのチャンネル1に接続します。

2. オシロスコープを起動し、性能試験前に30分間暖気します。
3. その他の測定器を起動し、その機器で指定されている時間暖気を行います。
4. 測定器が動作安定温度まで達する間、Performance Verification Test Recordをコピーし、データを入力する準備をします。

ZS1000の保証性能試験は仕様で定められている環境に記載されている範囲であれば、どの温度でも有効です。しかし性能を試験するために使われるその他の計測器は精度を保つために必要とされる環境条件がある可能性があります。各測定器で必要とされる周囲条件を確認してください。

注意:ZS1000 のコントロールはソフトウェア・バージョン 5.0.0.2 以上を必要とします。ソフトウェア・バージョンはオシロスコープのメニューから **Utilities, Utilities Setup...** を選択し、**Status** タブを表示させることができます。

アップデートに必要なソフトウェアは弊社 Web サイト www.lecroy.com/japan からダウンロードすることができます。弊社 Web サイトにご訪問頂くか、弊社営業窓口までご連絡ください。

機能チェック

機能チェックはプローブの機能的な基本的な操作を確認します。Performance Verificationを行う前にこの機能チェックを行う事をお勧めします。

次のようにオシロスコープをデフォルトの状態に戻します。:

1. オシロスコープを初期状態に戻します。
 - a. オシロスコープのメニューから **File - Recall Setup...** を選択します。
 - b. 底部に表示されるメニューの中から**Recall Default** ボタンをタッチします。
2. **C1**トレースラベルをタッチして、**C1 Vertical Adjust**ダイアログを開きます。
3. ダイアログのタブにZS1000と表示されていることを確認します。

測定手順

A. Output Zero Voltage

1. BNCケーブルをProBusエクステンダのプローブ側のBNCコネクタに接続します。50 Ω Precision 終端器をBNCケーブルのもう一方に接続します。
2. 終端器のバナナプラグをDMMの入力に接続します。BNCのシールドに対応するプラグがDMM入力の**LO**、又は**COMMON**に接続されていることを確認します。

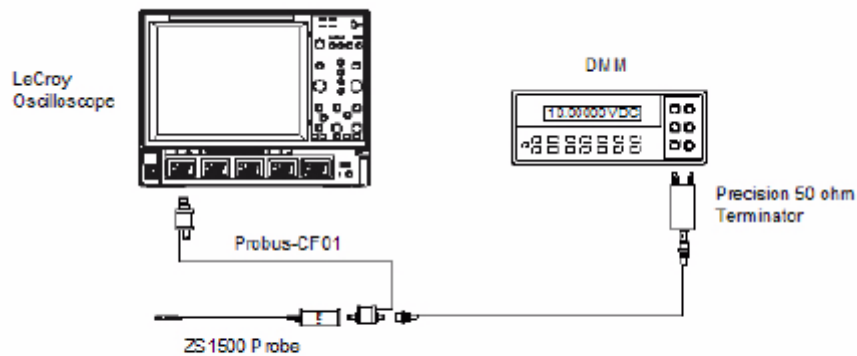


Figure 7-1. Output Zero Voltage Test Setup

3. オシロスコープのオフセットを零に設定します。
4. DMMをDC Voltに設定し、最も高いレンジで計測するよう設定にします。
5. DMMで計測された電圧を10uV の分解能で"Output Zero Voltage"として記録します。
6. DMMにより示された電圧が $\pm 800 \mu\text{V}$ 以内であることを確認します。
7. DMMから50Ω終端器から取り外し、次のステップのためこの状態のままにします。

B. LF Attenuation Accuracy

1. BNC-mini-grabberケーブルのBNC側をBNCのTアダプタのメスコネクタに接続します。BNCのTアダプタのオス側にバナナプラグ・アダプタを接続します。
2. プローブヘッドのソケットの中にStraight Tipsを注意深く入れます。Mini-grabberの赤いリードをプローブヘッドの信号入力に接続させ、黒いリードをプローブのグランド入力に接続させます。
1. BNCTコネクタをファンクションジェネレータの出力に接続します。（ファンクションジェネレータの出力が50Ω負荷を必要とする場合、50Ω終端を使用します） Figure 7-2 を参照。

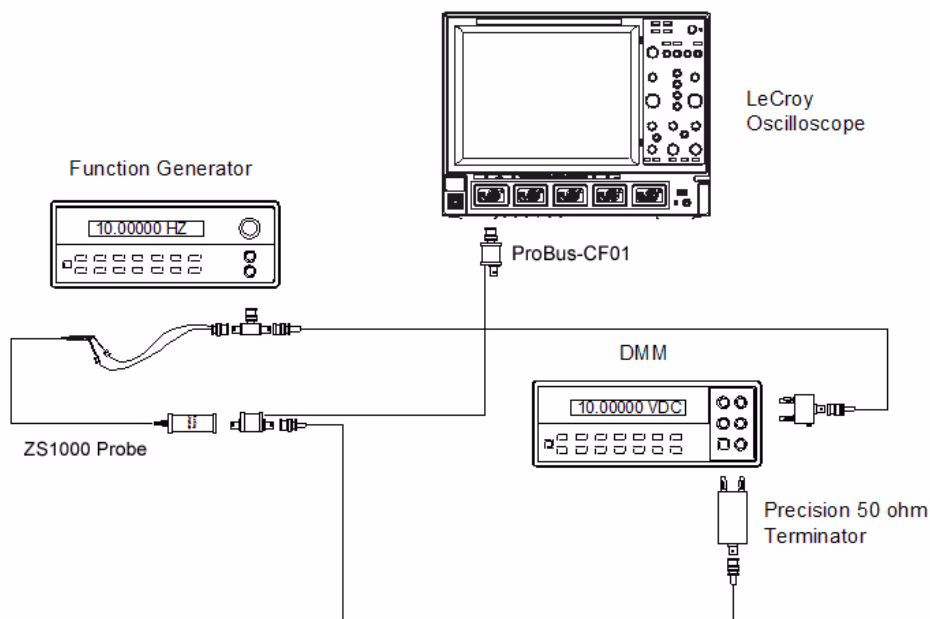


Figure 7-2. LF Attenuation Accuracy setup

2. Tコネクタの使用されていない端子にBNCケーブルを接続します。BNCケーブルのもう一方のコネクタにバナナアダプタを接続し、DMMに接続します。バナナプラグのGND側がDMMのLOW又はCOMMONに接続されている事を確認します。
3. DMMをAC電圧計測モードに設定し、5.0Vrms計測するレンジに設定します。
4. ファンクションジェネレータを70Hzのサイン波形に設定し、DMMで5 Vrms ±10 mVになるように振幅を調整します。
5. テストレコードの"Generator Output Voltage"に1 mVの分解能で出力電圧を記録します。記録した後出力電圧が変化しないように気をつけます。
6. ステップC-5で記録した値を10で割り、テストレコードの"Expected Output Voltage, top range"に100 μVの分解能で結果を記録します。
7. ファンクションジェネレータに接続されたバナナプラグアダプタをDMMから取り外し、50Ω Precision終端器をDMMに接続します。Precision終端器のGND側がDMMのLOW又はCOMMONに接続されている事を確認します。
8. DMMが安定した後、100 μVの分解能でテストレコードの"Measured Output Voltage, top range"に記録します。
9. ステップC-8で記録した出力電圧をステップC-6で記録したexpected top output voltageで割ることによりエラーを計算します。計算された値から1を引き、100%を掛け、エラーをパーセンテージにします。

$$Error = \left(\frac{Measured\ Output\ Voltage}{Expected\ Output\ Voltage} - 1 \right) \times 100\%$$

-
10. テストレコードの"Gain Error, top range"に計算されたエラーを小数点第2位(±0.xx%)まで記録します。
 11. エラーが±0.5 %以下であることを確認します。
 12. DMMから50Ω終端器を取り外します。
 13. DMM から50Ω Precision終端器を取り外し、ファンクションジェネレータの出力に接続されたバナナプラグアダプタにDMMを接続します。バナナプラグのGND側がDMMのLOW又はCOMMONに接続されている事を確認します。
 14. サイン波形出力の振幅がおおよそ2.5 VrmsになるようにDMMで計測しながら調整します。
 15. テストレコードの"Generator Output Voltage,mid range" に1mVの分解能で記録します。記録した後出力電圧が変化しないように気をつけます。
 16. ステップC-15で記録した値を10で割ります。
 17. テストレコードの"Expected Output Voltage,mid range"に100 μVの分解能で記録します。
 18. ファンクションジェネレータに接続されたバナナプラグアダプタをDMMから取り外し、50Ω Precision終端器をDMMに接続します。 Precision終端器のGND側がDMMのLOW又はCOMMONに接続されている事を確認します。 .
 19. DMMが安定した後、テストレコードの"Measured Output Voltage, mid range"に100 μVの分解能でDMMの計測値を記録します。
 20. ステップC-19で記録した出力電圧をステップC-17で記録したexpected top output voltageで割ることによりエラーを計算します。計算された値から1を引き、100%を掛け、エラーをパーセンテージにします。

$$Error = \left(\frac{Measured\ Output\ Voltage}{Expected\ Output\ Voltage} - 1 \right) \times 100\%$$

21. テストレコードの"Gain Error, mid range"に計算されたエラーを小数点第2位(±0.xx%)まで記録します。
22. エラーが±0.5 %以下であることを確認します。

8. 仕様

公称特性

公称特性は設計により保障されたパラメータや属性を表します。しかし関連した許容範囲はありません

入力ダイナミック・レンジ ± 8 V

非破壊電圧 20 V ※1

出力負荷 50 Ω

減衰率 $\div 10$

出力コネクタ形式 ProBus

インターフェース ProBus

レクロイ・オシロスコープ対応ソフトウェアバージョン 5.0.0.2以上

※1 周波数に対する非破壊電圧の変化はFigure 8-1を参照してください。

保証特性

保証特性は保証された性能を持つパラメータについて記述しています。他に注意がない限り、全ての保証特性のためのPerformance Verification 手順によりテスト方法が記述されます。

Low Frequency Attenuation

確度 $\pm 0.50\%$ + 50 Ω 終端の不確かさ

零出力 ± 2 mV, 入力換算値

代表特性

代表特性は保証された性能を持たないパラメータを表します。しかし複数のプローブのサンプルから平均的な性能を表します。代表特性のテストはPerformance Verification 手順には記述されていません。

帯域幅 (プローブのみ) 1 GHz

入力容量 0.9 pF

DC入力抵抗 1 M Ω

環境特性

保証動作温度 15 ~ 35 °C

動作温度 0 °C ~ 50 °C

非動作時 -40 °C ~ 71 °C

最大相対湿度 31 °Cまで80%. 直線的に減少し、50 °C で45%

高度 2000 m

物理特性

プローブ寸法

長さ 61 mm

幅 7.3 mm

高さ 13.1 mm

ケーブル長 1.3 m

重量:

プローブのみ 100 g

梱包時重量 0.85 kg

入力ソケット及びグランドソケットの互換性

0.635 mm (0.025 inch)のスクウェアピン

丸ピンの最大直径 0.91 mm (0.036 inch)

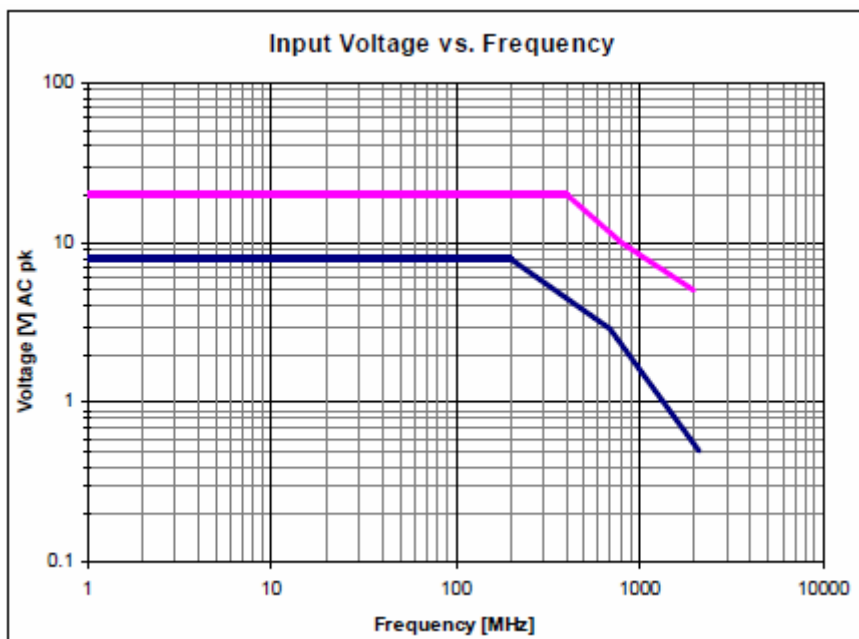


Figure 8-1 周波数に対する非破壊電圧

コンプライアンスと認証

CE適合宣言

低電圧指令： EN 61010-2-031:2002

測定、制御、および実験に使用するための電氣的装置に対する安全要求事項。

Part 031: Particular requirements for hand-held probe assemblies for electrical measurement and test.

EMC指令： EN 61326/A3:2003

測定、制御、および実験のために使用する電気機器のためのEMC要求事項

電磁放射： EN 55011/A2:2002放射線エミッション (Class A)

電磁イミュニティ： EN 61000-4-2/A2:2001

静電放電(Air/Contact Discharge: 4 kV)

EN 61000-4-3/A1:2003 RF誘導電磁界 (80 MHz to 1 GHz; 3 V/m)

Appendix A

PERFORMANCE VERIFICATION TEST RECORD

の記録用紙は ZS1000 の performance verification で計測した結果を記録するために使用します。このページをコピーして、そのコピーに結果を記録します。

試験レコード中のセクションは performance verification 手順で試験されたパラメータと一致します。データレコードの前にある番号はデータの記録を必要とする手順書内のステップの番号と一致します。"Test Result"と書かれた列に記録された結果が実際の仕様リミットチェックです。試験リミットはこれら全てのステップに含まれます。他の計測やリミットの計算に用いる中間的な計算の結果が"Intermediate Results"と書かれた列に記録します。試験結果を記録する事を目的としてこれらのページをコピーすることが許可されます。

Probe Model: ZS1000
Serial Number: _____
Asset or Tracking Number: _____
Date: _____
Technician: _____

EQUIPMENT USED:

	MODEL	SERIAL NUMBER	CALIBRATION DUE DATE
OSCILLOSCOPE			
DIGITAL MULTIMETER			
FUNCTION GENERATOR ¹			N/A

¹ Performance Verification 手順で使われるファンクションジェネレータは相対的に計測するために使用されます。ジェネレータの出力はDMM、又はオシロスコープで計測されます。つまり、ジェネレータはキャリブレーションする必要がありません。

ZS1000 TEST RECORD

Step	Description	Intermediate data	Test Result
Output Zero Voltage			
	A-5 Output Zero Voltage (Test limit $\leq \pm 800 \mu\text{V}$)		_____ V
LF Attenuation Accuracy			
	B-5 Generator Output Voltage	_____	V
	B-6 Expected Output Voltage, top range	_____	V
	B-8 Measured Output Voltage, top range	_____	V
	B-10 Gain Error, top range (Test limit $\leq \pm 0.5\%$)		_____ %
	B-15 Generator Output Voltage	_____	V
	B-17 Expected Output Voltage, mid range	_____	V
	B-19 Measured Output Voltage, mid range	_____	V
	B-21 Gain Error, mid range (Test limit $\leq \pm 0.5\%$)		_____ %